

## からすつりの熟れる頃

四季折々の花が咲き、さまざまな木の実がたわわに熟し、緑いっぱい樹木が紫外線を防ぐ園庭……。こんな保育環境づくりを私たちは、すすめてきました。

大津あいあい保育園は、二十一世紀初頭の二〇〇一年四月一日の開園前からこれまでの間に、八〇数種類の四〇〇本を越える樹木を園庭に植えてきました。この間八年、樹木はまだ十分な大きさに成長したとはいえませんが、年毎に確実に大きくなっています。かりん、柿、ざくろ、いちじく、姫リンゴ、マロニエなどの果実が実を結ぶようになりました。また、ヒマラヤ桜、芙蓉、サンシュユ、さるすべりなどの樹がいっぱいに花を咲かせ、黄花コスモス、ベゴニヤ、マーガレット、花手まり、琉球朝顔などの草花が色とりどりに咲いて、子どもたちに微笑みかけるようになりました。

そんななかで、昨年十二月、私の幼い頃からの思い出深い「からすつり」の根っこを数株、故郷の群馬県から取り寄せ、園庭の一角にある「あいあいの森」に植えてもらいました。

「からすつり」は、私の子ども頃、家の周りや野山のあちこちにありました。秋になると実が膨らみ、色づくると真っ赤に熟れます。オレンジ色からつややかな真紅になり、枯れた葉っぱの中に鮮やかに赤い色が目立ちます。ある日、道端の木に絡みつき、たわわに実った赤い実を一つ取ろうと手を伸ばしました。けれども足場が悪く、もう少しのところまで手が届かず、手に取ることができませんでした。「どうしてこんなに美しいのだろう。きつと自然のしずくをいっぱいもらってきれいになるのだろう」と思いました。その時から、「からすつり」は私の憧れにもなりました。

今日、「からすつり」は人里近くでは発見することが難しくなっていますが、「あいあいの森」の「からすつり」はやがて、つるを伸ばし真っ赤な実をいっぱいにつけ、熟す時がくるだろうと思えます。その頃、たぶん私は天国から、「あいあいの森」で遊び戯れる子どもたちを見つめてくれるでしょう。

二〇〇九年一月

下村 京子